

北海道社会科研究

「2023年も忘れられない年に」

北海道社会科教育連盟 委員長 千葉 一博
(札幌市立三里塚小学校長)



今年度、北海道社会科教育連盟委員長を仰せつかりました、札幌市立三里塚小学校校長、千葉一博と申します。どうぞ、よろしく願いいたします。

私たちにとって、2022年は忘れることのできない年となりました。第60回全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道大会を開催し、道社連の研究を全国へ発信することができたからです。私たちは、時代が移り研究における文言や進め方は変わったとしても、①人物の営みに学ぶ教材化②徹底した単元構成の工夫③「〇〇のはずなのに、なぜ～」という問いの醸成…の3つに力を注いできました。変えることなく追究し続けてきたことを、子どもの姿で提案し評価いただいたことは、今後研究を進める上での自信となりました。また、授業公開・実践提案・運営を会員一丸となって進めたことは、改めて組織の確かさを認識すると共に、会員同士の信頼の強さを高めることに繋がったと、私は確信しています。

そして、北海道社会科教育連盟は、今年度より新たな研究の歩みを始めます。研究主題を「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」とした3か年の研究です。初年度の今年は、11月24日（金）に、第78回北海道社会科教育研究大会・第50回札幌地区社会科教育研究大会を開催します。小学校4本、中学校3本、計7本の授業を公開し、変わらず子どもの姿で提案をします。

「社会とつながる」…子どもが社会とつながる・社会に参画するためには、発達の段階に応じて、どのような学びの構成が必要なのか。

「価値を創造する」…「価値を創造する」とは、授業の中で、子どものどのような姿が現れることなのか。

この2つについて、全道各地区がしっかりと解釈をした上で実践提案、協議をし、研究を深めて参りましょう。

各地区の知恵を合わせ、北国の子どもたちのために新たな研究へ踏み出す2023年。今年も忘れられない年になりそうです。

令和5年度 北海道社会科教育連盟 総会

新3か年継続研究の1年次の活動スタート 社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成

令和5年5月13日(土)、令和5年度北海道社会科教育連盟総会が札幌市立円山小学校にて開催されました。3か年継続研究の初年度における研究内容の共有と各地域の活動の充実を図るため、札幌地区をはじめ、全道各地区の代表者が参加し、熱の入った討議を行いました。

〈総会〉

午後2時より開催された総会では、道社連事務局次長 田丸明史先生の司会により議事を進行し、令和4年度の事業報告・各部年間活動報告・各地区の活動報告・会計決算報告が行われました。続いて、令和5年度の事業計画・予算案等を提案し承認されました。次に、道社連研究部長 河原秀樹先生から新3か年継続研究についての提案がされました。研究主題『社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成』、副主題『見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び』の説明と、めざす授業像の提案があり、全道一丸となって進む研究の方向性が示されました。

その後の各地区交流では、令和4年度のそれぞれの地区における授業実践をもとにした研究や、活動の充実を図るための各地区の工夫などについて説明がありました。学習会や研修会、研究会、新会員獲得に向けた取組と組織力強化等、全道各地で社会科の研究を推進する報告がなされました。

最後に、道社連の松尾則明副委員長から会同にて総会を開催できたことへの喜びと感謝、今年度の全道の活動への激励の挨拶があり、総会は閉会しました。

令和5年度 北海道社会科教育連盟役員

委員長	千葉	一博	札幌市立三里塚小学校	新
副委員長	三浦	一路	旭川市立東五条小学校	新
副委員長	大西	展史	白糠町立庶路学園	新
副委員長	高田	智史	函館市立北日吉小学校	新
副委員長	三和	史朗	留寿都村立留寿都小学校	再
副委員長	蟹谷	正宏	愛別町立愛別中学校	新
副委員長	松尾	則明	札幌市立清田南小学校	再
副委員長	橋本	隆	札幌市立川北小学校	再
副委員長	平澤	淳志	札幌市立円山小学校	新
副委員長	千葉	敏雄	札幌市立新琴似中学校	新
会計	大畑	秀樹	札幌市立拓北小学校	新
監査	塚田	崇	羽幌町立天売小中学校	新
監査	丹野	聡	標津町立川北小学校	新

全道各地区交流

《旭川地区》 宮腰 唯導 旭川市教育研究会 社会科研究部長

昨年度は、「問題解決学習のために主体的な学びを生む」ということを「つかむ」段階とし、7実践から研究を深められた。今年度は個別最適な学び・協同的な学びがどのような姿になるのかを学んでいきたい。

《網走地区》 山谷 大輔 網走地区社会科教育研究会 事務局長

昨年度は「問い」をキーワードに研究を行ってきた。管内や各地区の先生方と交流会を行うことができた。人数不足の問題があり、同じ先生で様々な活動をしている状況がある。

《胆振地区》 細部 善友 胆振地区社会科教育連盟 事務局長

大変厳しい状況にあり、会員数9名で維持をしてきた。ここ3年間は休眠状態だったところから、今年度からようやく活動できるようになった。なんとか今後も続けていきたい。

《渡島地区》 日登 圭一 渡島社会科教育研究会 事務局長

3年ぶりに集会形式の研究会・授業公開を行い、渡島・函館のつながりを深められた。JAL との連携による「空育」2年目を行い、全道の学校で実施できると感じた。課題は会員数がなかなか増えないことである。

《上川地区》 伊藤 旭人 上川地区社会科教育連盟 研究部小学校部長

昨年度は7月と12月に研究実践を行い、どちらも単元の導入に焦点を当てた授業づくりを行った。今年度から新研究のスタートということで、昨年度の研究から見えた成果と課題を生かし取り組んでいきたい。

《釧路地区》 山口 直樹 釧路地方社会科教育研究会 事務局長

全国小学校の大会では30名の参加がなかった。根室地区と連携しセミナーを年7回行い、初任者や大学生を対象とした研修も昨年スタートできた。今後、釧路での全道大会も視野に入れ、組織を維持していきたい。

《札幌地区》 佐野 浩志 札幌市社会科教育連盟 事務局長

昨年度の全国大会では、単元を通した問題解決の中で社会認識を深める授業を作ってきた。今年度は、全道大会で社会参画につながるような教材化をし、皆さんと一緒に研究を進めていきたい。

《後志地区》 寺下 剛史 後志社会科研究協議会 研究部長

佐藤正寿先生をお招きし、最先端の実践と理論について学ぶことができた。Zoom や Meet による交流を進めており、距離の課題が解消された。多くの先生に御参加いただけるような研究を進めていきたい。

《空知地区》 福井 雄也 空知社会科教育研究会 事務局長

昨年度は、テーマの見直しを図り、「地域教材を授業に落とし込む」方向で研究を進めた。今年度は、フィールドワーク等を通して、地域教材を活用して子どもたちがどのような社会参画をするかを研究していきたい。

《十勝帯広地区》 竹山 大輔 十勝帯広社会科教育研究会 事務局長

主に授業研究会と学習会を行うことができた。「子どもの主体性を高める」ことを重視して行ってきた。会員数の減少が課題だが、フィールドワーク等を通して、多くの人の足が向くような活動を続けていきたい。

《函館地区》 阿部 聖 函館市教育研究会社会科研究部幹事長

昨年度は12月に授業公開、7月と2月に渡島地区の小学校や函館市の小中合同の研究会を行うことができた。令和6年の函館大会に向け、会員の人数を増やしていけるよう人材確保や研修の充実に努めたい。

《檜山地区》 近藤 覚 檜山社会科教育研究会 事務局長

3年間コロナ禍でなかなか活動ができない状況であったが、今年度から少しずつできることに取り組んでいきたい。会員数の増加を図るため、先生方に足を運んでもらえるようにしていきたい。

《留萌地区》 小山 俊一郎 留萌管内社会科教育研究会 事務局長

コロナの中でも道社連のお力を借りながら、授業づくりを行うことができた。留萌地区でも他地区と同様、会員数の減少が悩ましい。子どもたちに有益な関わりができるよう努力していきたい。

研究主題 「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

研究副主題 ～見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び～

北海道社会科教育連盟研究部長 河原 秀樹（北海道教育大学附属札幌小学校）

2019～2022 年度までの 4 か年研究では、社会的
事象を創出する人物の営みを教材化し、子どもた
ちの理解の質を高め、確かな社会認識を育む学び
を積み重ねてきました。令和 4 年 10 月に行われ
た全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道
大会においても、私たち北海道社会科教育連盟の
諸先輩方が脈々と受け継いできた、発想の転換を
生かした教材化や、「～のはずなのに、なぜ？」
という問いが生まれる学びを通して、大きな成果
を上げたところです。

2023 年度からの新 3 か年研究を進めるにあたり、
研究部ではこれまでの研究成果を更に深化させ
ていきたいと考えました。

一方で、新 3 か年研究で新たに焦点を当ててい
く部分はどこかについて検討してまいりました。
そこから見えてきたことは、社会認識にとどまら
ず、社会参画につながる新たな価値を創造する子
どもの学びの姿を明らかにしたい、ということ
です。

VUCA の時代と呼ばれ、将来の変化を予測するこ
とが困難な時代の中に、子どもたちは生きていま
す。そのような子どもたちに、「多様な他者の価
値に触れ、自分の価値を創り変えられるようにな
ってほしい」「価値を創造する人物の営み（社会
的事象）を通して、確かな社会認識を育んでほ
しい」「持続可能な社会のために、未来を志向し、
新たな価値を創造する子になってほしい」と願
い、研究主題の子ども像と研究副主題の授業像を
設定いたしました。

併せて、研究主題と研究副主題に迫るための手
立てⅠ～Ⅲ、そして研究の土台としての手立てに
ついて示しています。

手立てⅠ

子どもと社会がつながる教材化と単元デザイン

＜具体的な手立ての例＞

- ・教材化の視点（社会認識と社会参画の視点）
- ・教材分析と見方・考え方のつながりの視覚化
- ・主体的な追究を可能にする単元の学習問題と活動目
的、問いの設定
- ・単元の学習過程の工夫
- ・子どもと社会的事象の距離を近付ける手立て
- ・人物との出会いを通して教材と子どもをつなぐ工夫
- ・体験的な活動や具体物の工夫

手立てⅡ

社会認識を深めるための一時間

＜具体的な手立ての例＞

- ・人物の営みを通して社会的事象の意味を考える本時
場面の設定
- ・単元で身に付けた知識がつながる本時場面の設定
- ・一人一台端末活用による個別最適な学びと協働的な
学びの一体的充実の中で社会認識を深める工夫

手立てⅢ

社会参画につながる新たな価値を創造する一時間

＜具体的な手立ての例＞

- ・単元の学びが活用される活動の工夫
- ・価値創造につながる新たな問いが生まれる手立て
- ・社会との関わり方について選択・判断する活動
- ・社会の発展について多面的・多角的に考える活動
- ・社会に見られる課題の解決に向けて議論する活動

研究の土台

他者を価値ある存在として受け止める学級経営 や教科経営による集団づくり

＜具体的な手立ての例＞

- ・学び方としての知識
- ・自分のよさや可能性への気付きから自己肯定感や、
自己有用感を高める学び方

令和 5 年 11 月 24 日（金）に開催される札幌大
会は、3 か年研究の 1 年目です。札幌地区の 7 本
の授業や全道各地区からの責任提案を通して、研
究主題に迫る子どもの姿を明らかにするととも
に、研究副主題に迫る授業とその手立てについて
皆さんで議論し、北海道の社会科教育を盛り上げ
ていきたいと考えています。

研究主題 「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

研究副主題 「見方・考え方を鍛え、確かな社会認識をもとに未来を志向する社会科の学び」

札幌市社会科教育連盟 小学校研究部長 栗原 聡太郎(札幌市立宮の森小学校)

■「全国大会のその先へ」新研究への期待

今、私たち札幌市社連は一面に広がる雪景色のように真っさらな気持ちでいます。昨年度行われた全小社研北海道大会を終え、新しい研究を全道の皆さんと共に、ここ札幌でスタートできることに大きな期待を感じています。そして、新しい挑戦への第一歩を踏み出すことへの責任とやりがい、に身が引き締まる思いも同時に感じています。

新研究のスタートに向けて、私たち札幌市社連は改めて研究の目的と現在地を確認するところから始めました。私たちは発足以来、「子どもたちの主体的な問題解決」を目指してきました。これは札幌市社連に限らず、全道の皆さんも目指しているいわば真北の方角であり、「北極星の光」とも呼べます。では、札幌から真北の方角を目指すとはどのようなことなのでしょう。私たちは一貫して「授業力」を磨いてきたと考えています。「授業力」は以下の3つの場面で発揮されると諸先輩たちから教えていただきました。

- ①教材化（焦点化、具体化、構造化など）
- ②問いを生む（子どもの中に矛盾を生むなど）
- ③教師の関わり（子どもの学びを支え、刺激する）

私たちが進める新研究は先輩たちが目指し、大切に積み上げてきた延長線上にあります。その上で、新研究は子どもたちが「未来志向」に向かう学びに挑戦します。未来志向とは社会が抱える現代的な諸課題に正対し、その解決に向けて考えたり、よりよい未来を構想したりする姿だと考えます。このような「未来を志向する社会科の学び」を実現するために3つの手立てを講じていきます。

【手立て1】

「社会的価値を明らかにし、社会とのつながりが見える教材化」

全国大会では「社会認識を深めるための教材化

の視点」として具体的人物の営みを教材化し、その意味を明らかにすることで子どもの社会認識が深まっていくことをねらいました。新3か年はその研究をさらに進め、「社会参画のための教材化の視点」から社会的事象の社会的価値を分析し、子どもと社会とのつながりに着目して教材化することを通して、子どもたちが未来志向に向かうことをねらっていきます。

【手立て2】

「見方・考え方を鍛える手立てを位置付けた単元構成」

単元の学習問題を設定するために子どもたちからどのような問いを引き出すのか、子どもたちの追究が主体的に進むようにどのようにして学習計画を立てるかに注力します。そして、単元の追究過程の中で子どもたちの見方・考え方が働くようにどのような問いを立てたらよいのか、どのような資料を提示すべきなのかを吟味し、そのための教師の手立てを単元構成図や単元構成の中に位置付けていきます。

【手立て3】

「未来志向に迫る1時間」

社会が抱える現代的な諸課題に正対し、その解決に向けて考えたり、よりよい未来を構想したりするような子どもが「未来を志向する姿」を具体的に思い描き、その姿を引き出すための教師の手立てを位置付けた1時間の授業場面に挑戦します。

さて、どのような授業実践が生まれるのでしょうか。文章を書いている現時点では想像もつきません。しかし、子どもの姿をもとに皆さんと学び合うことで実践の価値が見えてくると確信しています。大会当日、全道の皆さんと熱く社会科について語り合えることを楽しみにしています。

第3学年部会

単元名:事故や事件からくらしを守る

授業者:札幌市立北九条小学校

鈴木 悠也 教諭



2007年から地域の住民と協力して北九条小学校の6年生が「安全マップ」作成に関わり更新し続けています。この姿は3年生の子どもたちにとって最も身近な社会参画のモデルだと捉え、教材化しました。未来志向を迫る1時間では、大人や公的機関だけでなく、「安全マップ」作りに小学生が関わる価値を追究します。取組の価値を追究した後、小学生や地域の方に活用されていない事実、あるいは配付された最新版とされる情報が昨年のものである事実を提示するなどし、「自分たちが安全マップのよさを広めたい」「自分たちも安全マップの作成に関わりたい」という参画意識が子どもの言葉で語られるようにします。確かな社会認識を積み上げる学びから子どもが参画意識をもつようになる転換点となる1時間を目指します。

第5学年部会

単元名:これからの食料生産とわたしたち

授業者:札幌市立円山小学校

工藤 拓海 教諭



近年、漁師の収入の不安定さを背景とした後継者不足や、水産資源の減少など、日本の水産業における現代的諸課題が深刻となっています。未来志向を迫る1時間では、くら寿司が行っている「一船買い」を教材化します。この取組の価値を考えることを通して、日本の水産業が抱える問題の解決に向け、工夫や努力をしている人々の営みに迫ります。ただ、くら寿司の「一船買い」だけで全ての課題を解決できるわけではありません。そこから子どもたちは、他にどのような取組があるのか調べたり、自分はどのようにしていくべきなのか考えたりと、未来に向けたよりよい食料生産の在り方を追究していく姿を狙います。

第4学年部会

単元名:地震災害からくらしを守る

授業者:札幌市立伏見小学校

小沼 明日騎 教諭



北海道は冬に地震災害が起きると多くの死者が想定されています。今回「冬の地震災害」に着目し、防災対策を見直すことをねらいとします。本単元では、「地震から暮らしを守るために、どのような対策をしているの?」という学習問題を子どもたちと設定します。子どもたちは自助・公助・共助の視点で、防災対策について追究していきます。本時では、冬に防災訓練を行っているという社会的事象を通して、「防災グッズを見直したい。」と自分事として捉え、防災対策について見直す姿を引き出していきます。自助に対する意識を高めることが、社会参画へ踏み出す一歩になると考えます。

第6学年部会

単元名:世界に歩み出した日本

授業者:札幌市立緑丘小学校

黒田 健太 教諭



2020年度の新学習指導要領全面実施より、6年生では、政治単元から始まり、その後歴史単元に入っていく流れに変更されました。これは主権者教育を重要視したねらいがあります。そこで、この変更点を生かし、政治単元の“今”と歴史学習の“過去”を結び付けつつ、“未来”へと歩み出す子どもたちが、社会参画につながる新たな価値を創造する1時間となるよう目指します。条約改正を通して、国際的地位の向上が図られた時代、国内では多くの市民が“権利”を求め主張し始めました。その背景を考えていくことで、当時の民主主義の高まりを捉えつつ、現在の選挙の在り方につなげていきます。未来の日本がどうあるべきか、思考を巡らせる1時間となるようにします。

「よりよい社会づくりに参画する子」の育成を目指して

札幌市社会科教育連盟 中学校研究部長 大坂 聡（札幌市立義務教育学校福移学園）

今年度、中学校部会では、これまでの中学校部会としての研究の成果と課題や、道社連の新テーマと研究内容、市社連小学校研究部の研究内容をふまえ、以下の内容で研究を進めていきます。

研究主題

社会と自分のつながりを知り、よりよい社会づくりに参画する子の育成

子どもに求める力

- 社会を形成している営みの価値や、社会にある課題を見出す力
- 営みの価値を持続、発展させていくべき方向を見出し、目指すべき社会のあり方を考察、構想する力
- 自他の価値や可能性を再認識し、未来の幸福を実現するための行動につなげていく力

研究副主題

見方・考え方を鍛え、子ども一人一人が、学ぶことに価値を見出す社会科の学び

重視する授業の姿

- ◆子どもが、社会的事象と自分のつながりや、事象に関わる課題を見出すことができる授業
- ◆子どもが、課題の解決に向けて、これまで学習した知識や技能、社会的な見方・考え方を活用しながら、他者と協働的に思考を広げ深めることができる授業
- ◆子どもが、社会的事象の意味や意義を捉え、よりよい社会のあり方を考察・構想することができる授業

手立て1「子どもが、社会とのつながりを実感できる教材化」

- ・子ども自身が、社会的事象と自分たちのつながりを知り、社会的事象を学ぶことに価値を見出すことができるよう、教師が社会的事象を構造的に理解したり、子どもの実態を十分に把握したりしながら、教材化を工夫する。

手立て2「子どもが、社会認識を深める学びのデザイン」

- ・単元や本時が進む中で、子ども自身が社会認識を段階的に深めることができるよう、獲得・活用すべき知識や技能の内容、社会的な見方・考え方を明確にしながら、単元や本時の構成を工夫する。

手立て3「子どもが学びをつなげ深めるための教師の関わり」

- ・単元や本時の目標の達成を、子ども主体の学びによって実現することができるよう、授業場面ごとの資料提示や言葉がけ、日常の教科運営の方法を工夫する。

昨年度の大会では、4か年研究のまとめとなる授業の映像をもとに、中学校部会会員だけでなく小学校部会や北海道社会科教育研究会（北社研）の先生方とともに、社会科の学びについて意見を交わすことができました。今年度は、3年ぶりに授業を公開することができます。全道よりたくさんの方々に参加していただき、よりよい社会科の学びについて議論ができることを楽しみにしております。

地理的分野部会

単元名：世界の様々な地域

～アフリカ州～

授業者：札幌市立中央中学校

秋山 遥 教諭



本単元では、アフリカ州を大観し、産業や経済の課題と人口・食糧問題を結び付けて捉えるとともに、人口増加・食糧不足といった問題における一般的課題とアフリカ州における地域特有の課題とを捉えることを主なねらいとします。

学習課題を「アフリカの将来のために、最も解決すべき課題は何だろうか」と設定し、自然環境、地域経済の変化、地域内の食料需給などを地域の人々の生活と関連付けて追究していくことで、持続可能なアフリカ州の将来について考察していきます。子どもたちが、アフリカ州を身近に感じることができる授業を目指します。

歴史的分野部会

単元名：近代国家への歩みと国際社会

～近代国家への歩み～

授業者：札幌市立新琴似中学校

野々川 華奈 教諭



明治期の「北海道の開拓」に焦点を当てた実践を行います。日本は、19世紀後半から20世紀前半にかけて急速な近代化を進めて近代国家の仕組みを整え、後に列強としてアジア諸国をリードし、欧米諸国と密接な関係を築いていきました。

本実践では、単元を通して「近代化」について考え、日本が近代国家を形作る過程における「北海道の開拓」の重要性や、自分たちが住む地域とのつながりについて理解を深めるきっかけとしていきたいです。

公民的分野部会

単元名：私たちの暮らしと経済

～これからの経済と社会～

授業者：札幌市立羊丘中学校

川股 直樹 教諭



本実践では、生徒の身近にある「札幌ドーム」を教材化していきます。今年度、北海道日本ハムファイターズが北広島市にあるエスコンフィールド北海道に移転しました。それにともない、運営面や財政面などの課題に直面している「札幌ドーム」の現状を通して、地方自治や財政などについて、習得した知識を活用しながら、「経済の持続可能性と真の豊かさ」について追究し、深く考えていくことができる授業を目指します。

本単元の学習を通して、私たちの生活と財政には密接な関わりがあることを改めて認識し、地域社会の一員として、社会参画意識を高めることのできる授業を目指していきます。

令和5年6月

関係各位

北海道社会科教育連盟
札幌市社会科教育連盟
委員長 千葉 一博
(札幌市立三里塚小学校長)

第78回 北海道社会科教育研究大会札幌大会
第50回 札幌地区社会科教育研究大会

開催要項

■大会研究主題

北海道社会科教育連盟研究主題・札幌市社会科教育連盟研究主題

「社会とつながり、価値を創造する北国の子の育成」

■大会概要

- 主催 北海道社会科教育連盟 札幌市社会科教育連盟
- 後援 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会
札幌市小学校長会 札幌市中学校長会 (以上、予定)
- 期日 令和5年11月24日(金)
- 会場 全体会場 北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのアスピックホール
9:45 (1) 開会式
11:35 (2) 研究提案
(3) 講演(講師: 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 小倉 勝登 氏)

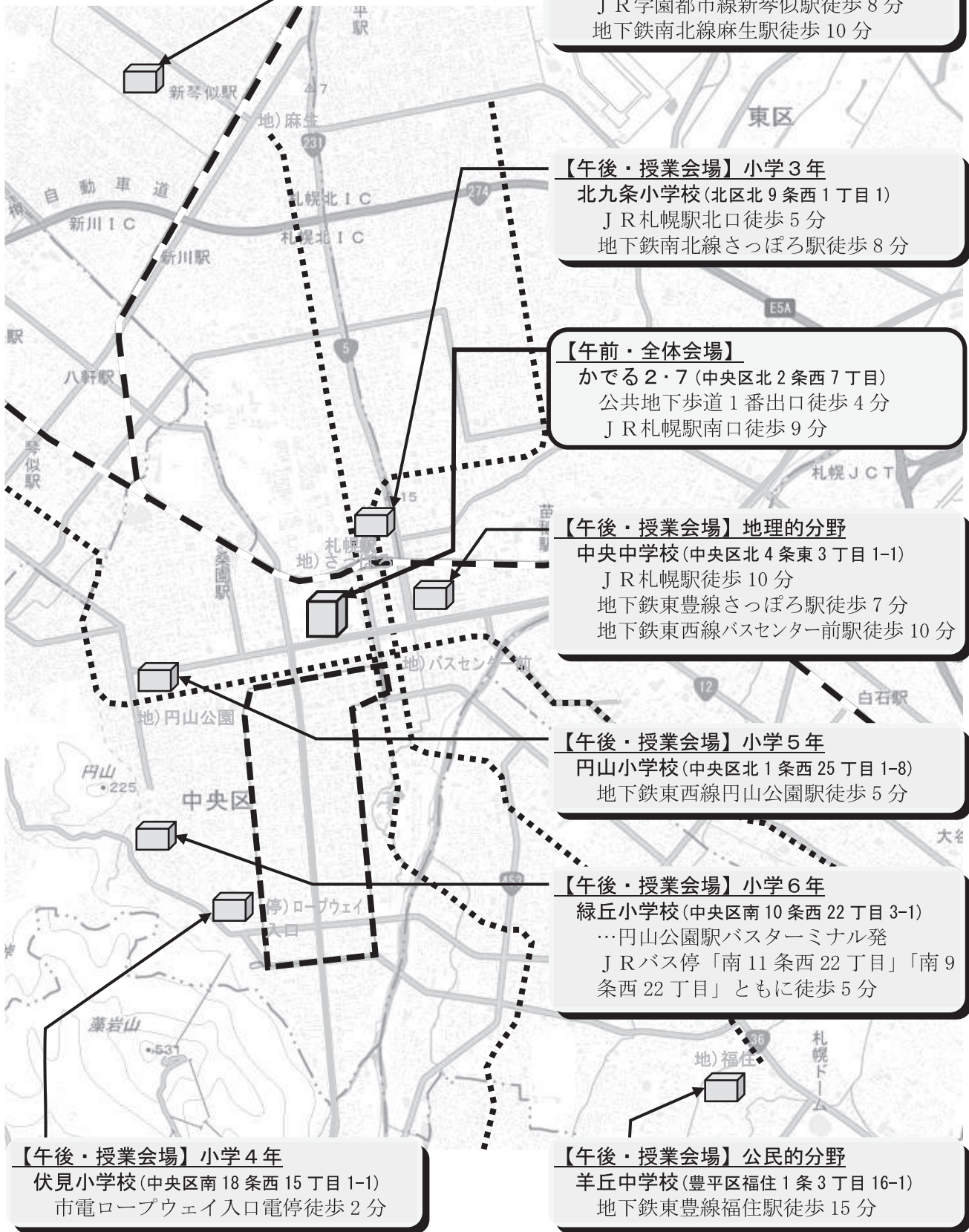
授業会場 小学3年 札幌市立北九条小学校(授業者; 鈴木 悠也)
小学4年 札幌市立伏見小学校(授業者; 小沼 明日騎)
13:10 } 小学5年 札幌市立円山小学校(授業者; 工藤 拓海)
16:50 } 小学6年 札幌市立緑丘小学校(授業者; 黒田 健太)
※会場により 地理的分野 札幌市立中央中学校(授業者; 秋山 遥)
異なります 歴史的分野 札幌市立新琴似中学校(授業者; 野々川 華奈)
公民的分野 札幌市立羊丘中学校(授業者; 川股 直樹)
- 参加費 3,150円(手数料を含みます。研究紀要冊子や昼食などは別途、申し受けます)
- 大会関連行事 地区交流会 令和5年11月23日(木・祝、大会前日) 17:00~18:00
レセプション 令和5年11月23日(木・祝、大会前日) 18:15~20:00
〔会場〕 ホテルライフオート札幌 ライフオートホール
- 備考 ○大会当日の移動は、基本的に参加者各自で負担していただきます。
※若干の昼食は全体会場に用意できますが、喫食時間やスペースに制限があります。
○各会場には駐車場がありません。公共交通機関の利用をお願いします。
※なお、伏見小、緑丘小へは全体会場より貸切バス等を用意する予定です。
○授業会場では公開授業及び責任提案(2~3本)に対する研究討議を行います。
○大会詳細の案内及び参加受付は、9月中旬以降を予定しています。

■問合せ先

【おもに全体会場を担当】
北海道社会科教育連盟 事務局長
石川 円(札幌市立発寒南小学校長)
TEL 011(662)2012

【おもに授業会場を担当】
札幌市社会科教育連盟 事務局長
佐野 浩志(札幌市立山鼻小学校長)
TEL 011(511)6616

■大会会場案内



○各会場には駐車場がありません。公共交通機関の利用をお願いします。

※なお、全体会場より伏見小、緑丘小へは貸切バス等を用意する予定です。